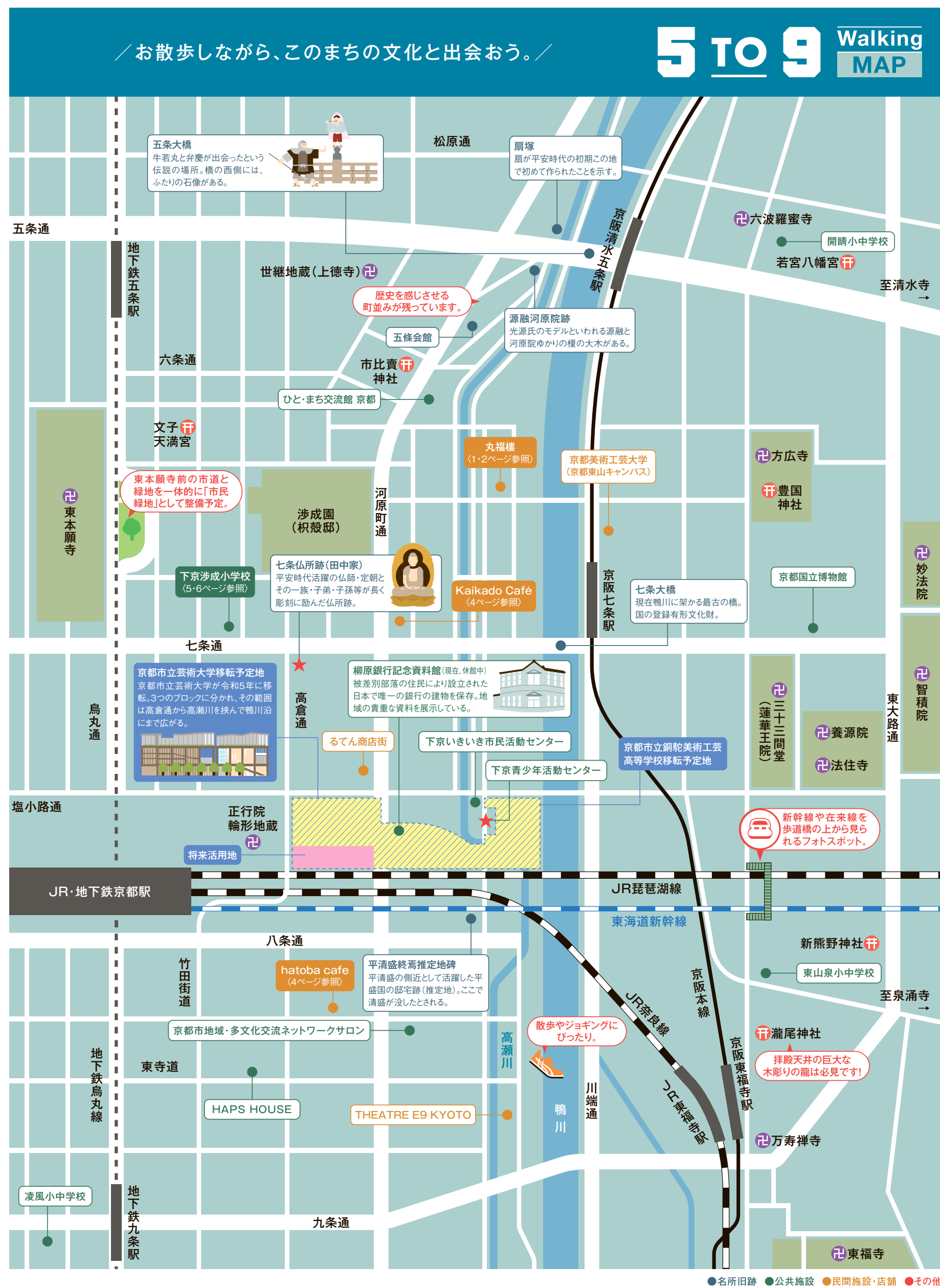




お散歩しながら、このまちの文化と出会う。

5 to 9 Walking MAP

御意見・御感想大募集!

5T09(ゴートゥ・ナイン)への御意見・御感想の他、「こんな素敵な人がいる! あんな素敵な場所がある!」という情報をぜひお寄せください!

※いただいた内容は、誌面上で紹介する場合がございます。

[お送り先] ▶京都市総合企画局プロジェクト推進室 TEL.075-222-3176(土、日、祝を除く 午前8:45~午後5:30) FAX.075-213-0443
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地 ☒project@city.kyoto.lg.jp

京都市
CITY OF KYOTO

京都駅東部・東南部エリアのカルチャーを発信。

5 to 9

East and South-east Parts of the Kyoto Station Area
CULTURE JOURNAL



Special Interview

任天堂創業家の
山内万丈さんが
ゆかりの地で挑む
京都の新たな
「顔」づくり。

November 2022

vol.
08



任天堂創業家の山内万丈さんが ゆかりの地で挑む、 京都の新たな「顔」づくり。

ホテル開業でエリアの 注目度がさらにアップ。

五条通の南、河原町通と鴨川に挟まれた菊浜エリアが注目を浴びている。ここ数年、オーナーのこだわりが詰まった飲食店や銭湯が話題を呼んでいたが、今年の4月に開業したクラシカルな佇まいのホテルがエリアの注目度をさらに高めた。『丸福樓』は昭和初期に建てられた任天堂の旧本社ビルを、竣工当時の姿を保ちつつホテルに改修したものです。そう語るのは任天堂創業家・山内家の山内万丈さん。

比類なき独創性とチャレンジ精神により、花札やトランプを製造・販売する商店から世界的なゲームメーカーへと飛躍した任天堂の創業地は、現在の菊浜エリア。「正面通に面した旧本社ビルの内部は長い間非公開でしたが、任天堂の原点である建物だけでも一目見ようと国内外から多くの方がこちらにお越しになっていました」。

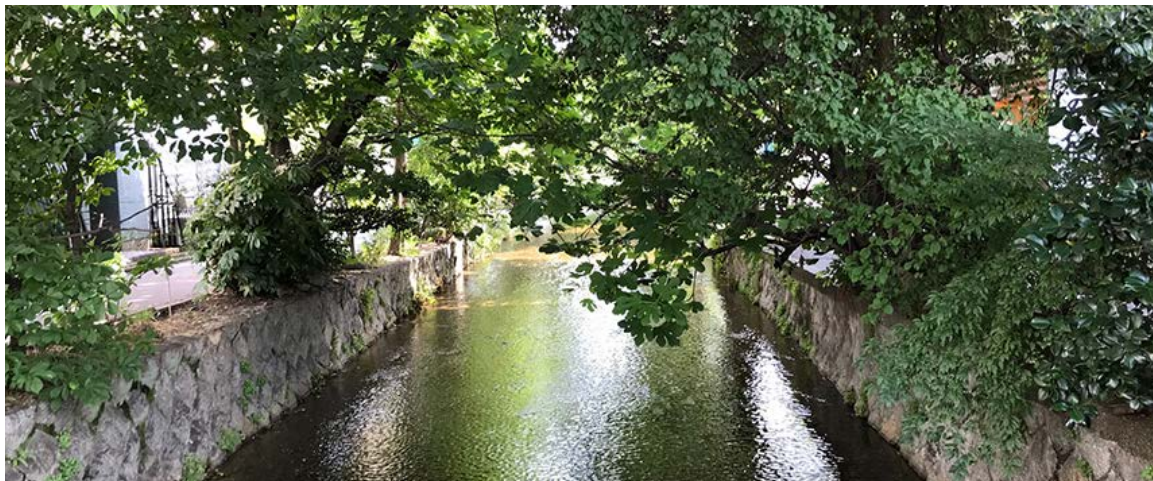
ちなみに「丸福」は任天堂のかつての屋号であり、ホテルの開業には「任天堂の足跡を地域の

レガシーとして次代に伝えるとともに、このエリアに世界中から人を集めるという目的があります」と山内さんは語る。

地域の人たちの思いを まちづくりに。

山内家は、京都市が進めている高瀬川の護岸の損傷や漏水による水枯れ等の改修工事に多額

の寄付を行った。今後は京都市や専門家と川沿いをくまなく見てまわって新たな高瀬川のデザインに関わっていく。もっとも、自分たちの思いだけで改修を進めることはしない。「高瀬川の清掃や町内会の集まりにお邪魔し、地域の方々の思いや開発のヒントになる話を伺うよう努めています。そこに住んでいる人とお話していると、おもしろいアイデアをたくさんいただけるんですよ。こうしたヒントを得ながら、より地域に親しまれる高瀬川にしていきたいですね。」



5 To 9 Banjo Yamauchi, a member of the founding family of Nintendo, challenging to create a new “character” of Kyoto in the area associated to his family.

Special Interview

世界中の「知」とつながり 誰もが夢を抱けるまち。

山内さんは、これからの菊浜エリアを見据え、起業家やアーティストなどが集う魅力的なまちとして、“新しい価値”を生み出そうとするチャレンジングな活動「京都五条 菊浜エリア活性化プロジェクト」にも取り組みは始めている。「任天堂は地域の皆さまに温かく見守られ成長してきました。だからこそ山内家のルーツでもあるこの地を、地域の人々の思いを込めた魅力的なまちとして活性化させたいんです。」と山内さん。

菊浜エリアには任天堂旧本社をはじめどこかなつかしさを感じられるレトロな街並みが今もなお残っている。「まちの雰囲気や高瀬川沿いの風景に、京都のほかの地域にはないような個性が受け

活かして、分野を横断した多様な知と人材が交差できたり、幅広い人材と地域の皆さんとが気軽に交流できたりする仕組みをつくりたいと考えているところです」。

例えば、若き日のスティーブ・ジョブズのような人物と川べりの居酒屋で互いのアイデアを語り合い、その出会いをきっかけに、いつか自分も世界を変えるイノベーションの主人公になる。誰もがそんな夢を抱けるまちこそが、山内さんの思い描く京都の新しい「顔」だ。

枠の裏や外をのぞいて もっと楽しい未来へ。

独創性とチャレンジ精神は、山内さんにとってかけがえのないものと言う。「プロジェクトを始め



創業家・山内家が解釈する任天堂の歴史・文化を体现したライブラリー「dNa(ディーエヌエー)」。

継がれています。このプロジェクトでは今あるものをできるだけ活かしながら、長期的な視野で菊浜エリアを京都の新しい「顔」にしていきたいと考えています。」と続ける。

山内さんが目指すのは「ハコモノ」を整えて観光地化を図るといったものではない。新たな創作活動やビジネスが生まれる仕組みをつくり、住んでいる人にとっても魅力的なまちを創造していくことである。「山内家では「それって夢物語?」と思えるような技術開発に取り組む世界中の企業や個人を支援しています。そこで築いた起業家や技術者、研究者からなるグローバルなネットワークや山内家が菊浜エリアで所有する土地・建物を

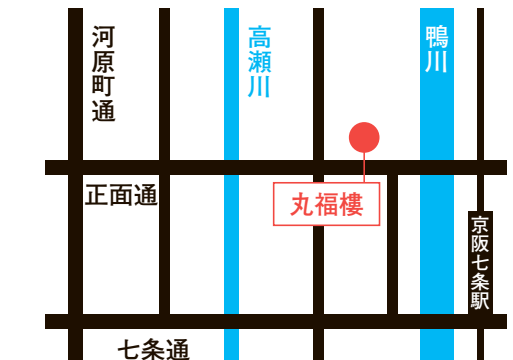
たこと自体が挑戦であり、その目的もまた、より良い未来をつくるために挑戦を続ける人にチャンスを提供するというものです」。独創性とチャレンジ精神は、「『枠の裏や外をのぞき込もうとするマインド』、言うならば、『常識を疑うこと』」と山内さんは続ける。「自分についても言えるのですが、これからの時代を生きる人には経験にとらわれず、常識を疑うことが重要と考えています。そうしないと従来の価値観に縛られ停滞するばかりで、世の中をもっと楽しくしたり、もっと幸せにするコトやモノは生み出せないと思うんです」。

令和5年度に菊浜エリアの近くに移転する、京都市立芸術大学の学生にはこんな思いを寄せ



る。「芸術をよく分かっていない僕が言うのも何ですが、目の前の常識を疑う『枠の裏や外をのぞき込もうとするマインド』は創作に不可欠だと思うんです。今すぐに叶えることはできませんが、近い将来菊浜エリアを芸大生にとっても魅力的なまちにして、その挑戦を何らかのかたちで支えられればと考えています」。

幼い頃から菊浜エリアを何度も訪れ、中でも高瀬川が強く記憶に残っているという山内さん。「今も川沿いの道を歩くのが気持ちがいい。この心地よさを大切にしつつ、世界中の人がワクワクするような京都の新しい「顔」をつくるのが僕の夢です」。山内さんのエリアの未来に対する想いは尽きない。



ホテル 丸福樓
https://marufukuro.com TEL.075-353-3355

開催意図

Intention of the concert

若手アーティストが京都市立芸術大学移転予定地を題材にアート作品の制作や移転予定地周辺で活動を行う「移りゆくまち」プロジェクト。今回は京都芸大音楽学部の萩原凜さんと黒澤雄太さんが移転予定地周辺のカフェで演奏会に取り組んだ。



人を楽しませるために
音楽を学んでいることを
演奏で伝えたい。

Ⅰ カフェを舞台にはじまった「小さな演奏会」。

萩原さんと黒澤さんの二人はこの夏から、同じ音楽学部の学生たちと京都芸大の移転予定地周辺で「小さな演奏会」を始めた。その名の通り、小編成の合奏団によるミニコンサートだ。「8月に初めて河原町七条の『Kaikado Café』さんで、二日間にわたって演奏させていただきました」と萩原さん。「1日目はチェロやクラリネット、打楽器を使って、2日目はバイオリンやフルート、オーボエにより、京都芸大の音楽学部ならではの演奏技術を披露できるクラシックの名曲などを選曲しました」と黒澤さんは語る。

カフェには20代から60代まで幅広い世代の人が集まった。「皆さんコーヒーやケーキを召し上がりながら演奏に耳を傾けてくださり、中でも最後にひときり大きな拍手をくださった方の笑顔が忘れられません」。萩原さんも笑顔でそう振り返る。

Ⅱ 音楽をとおして自分たちをアピール。

「僕たちが在籍する京都芸大の音楽学部は他の大学とは違い、大変人数も少ないです。そのぶん、学年や専攻を超えて大変仲がいいので、演奏会の衣装を先輩からもったりもします。そのような環境でクラシック音楽を中心に日々学んでいます。僕たちは打楽器専攻なのですが、全員で9人しかいません。打楽器専攻には専門の楽器がないので、大きなティンパニからカステネットまで叩けるものは何でも練習しています。」と萩原さんは京都芸大の音楽学部について教えてくれた。

「小さな演奏会」を始めたきっかけは「京都芸大にはどんな学生がいて、みんな何のために、どんなことを学んでいるのかを伝えなかったから」と黒澤さん。「移転予定地周辺で京都芸大についてご存知でない方や、京都芸大に音楽学部があるの知らない方がまだ多いと思うんです。じゃあ、私たちの本分でもあり強みでもある「音楽」で自分たちをアピールしようと思い、演奏会を始めました」と萩原さんが続ける。

それに加えて、音楽をもっと身近に感じてほしいという願いがある。だからこそ、誰もが気軽に立ち寄れる場所を会場に選んだ。二人には京都コンサートホールなど大きな会場での演奏経験があるが、「お客さんの視線が自分に集中しているのがダイレクトに分かるので、小さな会場での演奏もかなり緊張しますね」と黒澤さんは笑う。

Ⅲ 京都芸大移転後も積極的に地域とかかわる。

今後もカフェやホテルのロビーでの演奏会を予定しているが、こんな計画もあると萩原さんが教えてくれた。「美術学部の学生と組み、演奏に合わせて即興で絵を描くライブペインティングができればいいなど。このほかにもCG映像によるプロジェクションマッピングを組み合わせるプランが浮上するなど、演奏会を芸大生の多様な学びの成果を発表する場にしたという声が上がっているんです」。

移転後も演奏会を続けるつもりだが、「僕たちがお邪魔するという立場なので、地域の皆さんに京都芸大に親しんでいただくためにはこちらから積極的に地域とかかわる必要があると思っています。大学の周りにはいろんなお店があり、会場にふさわしい場所はたくさんあります。もしかしら鴨川でもできるかもしれませんね」と黒澤さん。

萩原さんは演奏会の目的についてあらためて、こう語ってくれた。「僕たちは音で人を楽しませたいから日々音楽を学んでいる、ということを伝えていきたいです。そして、演奏会を重ねる中で音楽が地域の皆さんの日常に溶け込めば、そんなにうれしいことはありません。皆様に楽しんでいただけるよう、僕たちも頑張りますので、ぜひ僕たちの演奏を気軽に聞きに来てください」。

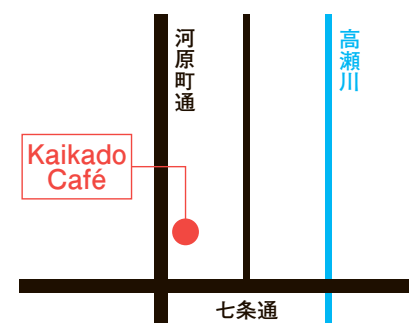


演奏会開催

Holding a concert

10月14日 | 金 |
Kaikado Café

下京区河原町通七条上ル



キーボード: 木崎周 (きさきあまね) さん
京都市立芸術大学音楽学部弦楽専攻2回生。



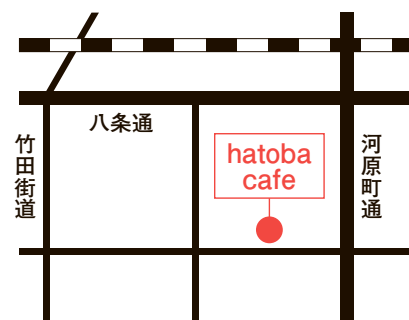
バイオリン: 渋谷晶世 (しぶやあきよ) さん
京都市立芸術大学音楽学部弦楽専攻1回生。



フルート: 中田莉央 (なかつりお) さん
京都市立芸術大学音楽学部管・打楽専攻1回生。

10月15日 | 土 |
hatoba cafe

南区東九条西岩本町



バイオリン: 大石彩代 (おおいしさいよ) さん
京都市立芸術大学音楽学部弦楽専攻2回生。



バイオリン: 淨念真名実 (じょうねまなみ) さん
京都市立芸術大学音楽学部弦楽専攻2回生。



キーボード: 八島碧 (やしまみどり) さん
京都市立芸術大学音楽学部ピアノ専攻2回生。

— 株式会社Tooは、京都市立芸術大学の学生と地域のつながりを応援します。 —

アートをとおして子どもたちと交流。 「渉成レジデンス」in 京都市立下京渉成小学校

京都市立芸術大学などの芸術系大学と京都市立小・中学校は、美術教育の充実や芸術を大切にする風土づくりを目指してさまざまな取り組みを行なっている。東部エリア内の京都市立下京渉成小学校では、2015年から「渉成レジデンス」として、京都芸大出身のアーティストが制作活動を展開。同校の波多野校長と3人のアーティストに、この取組の意義や活動内容について伺った。



安枝知美(やすえともみ)さん(写真左から1人目)／高知県出身。平成27年(2015)、京都市立芸術大学大学院 美術研究科修士課程絵画専攻油画 修了。令和4年(2022)より「渉成レジデンス」に参加。
杉本昌之(すぎもとまさゆき)さん(写真左から2人目)／兵庫県出身。平成25年(2013)、京都市立芸術大学 美術学部美術科油画専攻 卒業。平成28年(2016)より「渉成レジデンス」に参加。
渡辺千明(わたなべちあき)さん(写真左から3人目)／京都府出身。平成27年(2015)、京都市立芸術大学大学院 美術研究科修士課程絵画専攻油画 修了。令和4年(2022)より「渉成レジデンス」に参加。
波多野愛(はたのあい)校長(写真左から4人目)／平成29(2017)年より京都市立下京渉成小学校に在職。

児童の心を揺さぶる出会いに期待。

「渉成レジデンス」について教えてください。

波多野校長

校内の空き教室を活用し、京都芸大出身のアーティストの方が作品の制作を行なっています。その一環として、レジデンスで制作された作品は校内で開催する作品展で児童の作品と一緒に展示したり、校内の掲示板に月替わりで展示したりしています。

校内での制作は児童にどのような影響を与えていますか？

波多野校長

制作室は教室の隣りにあり、児童は普段の学校生活の中でアーティストやその作品と触れ合うことができます。こうした体験をすることで、児童の好奇心や探究心が刺激されていますし、中には「この絵をどんな気持ちで描いたんだろう?」とか「どうしてこんな表現にしたんだろう?」といった内面的なことに関心を持つようになり、そのことについて直接作者に尋ねる児童もいます。このようにアートやアーティストを身近に感じられる環境は、児童の柔軟な発想を伸ばし、心豊かな発達にも良い影響を与えていると思います。

京都芸大の移転に期待することは？

波多野校長

学生の授業への参加やワークショップの開催など、児童がアートに親しめる機会

が自然と増えていけばうれしいですね。児童の多くがゲームやアニメを通じてアートに関心を持っているので、京都芸大との交流が児童の琴線に触れる体験や、将来の進路選択に良い影響をもたらす経験につながることを期待しています。



教室をそのまま活用した制作室。

子どもたちの声を制作に生かす。

子どもたちの近くで制作してはどうですか？

安枝

制作室の内部が廊下から丸見えなので、子どもたちと作品のテーマや技法について自然と話をするようになって、結構楽しいですね。ちょっとした色使いとかみんな細かいところに注目して、気になることがあればどんどん質問してくるので刺激にもなります。中には放課後に遊びに来て、家族の話をしてくれる子もいますですよ(笑)。あと教室が広いので作品を並べて見渡せ、大型の油画も描きやすくて助かっています。

渡辺

子どもたちの声を聞きながらの制作は経験したことがなかったので、こういった環境はすごく新鮮ですね。先生からお声掛けをいただき図工の授業を見学することがあるのですが、そこでちょっとレクチャーをしたり困っている子がいたらアドバイスをしたりして、制作室の外でも子どもたちとの交流を楽しんでいます。

子どもたちから受ける影響は？

杉本

みんな反応がとても素直で、それを制作に生かした経験があります。青い絵の具を使っていると「海の絵を描いてんの?」と聞かれ、そのひと言にひらめきを感じて絵のテーマを人の顔から海に変えました。ちょっと話がそれますが、レジデンスで制作を始めたころは自分がどう思われているか、正直不安でしたね。教師でもな



アーティストも関わった5年生の図工授業の様子。

